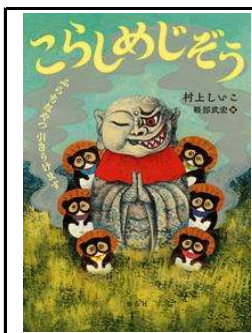


	<table border="1"> <tr><td colspan="2">1</td></tr> <tr><td>書名</td><td>アマガエルのうた</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>作 谷口智則</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>アリス館</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年6月</td></tr> </table>	1		書名	アマガエルのうた	著者等	作 谷口智則	出版社	アリス館	定価	1,500	対象	小学校低学年	発行	2023年6月	<p>「♪あめふれあめふれ グアグアグア ぼくがうたえば あめがふる♪」アマガエルが歌っていると、仲間のカエルたちに「きみのうたなんて なんのやくにも たたないだろ」と言われ、悲しい気持ちになったアマガエル。そして、「自分の歌が必要な人はいるのかな」と、旅に出ることにした。みんなに元気を与えるために歌う虫たち、森が明るくなるように歌う鳥たちは、アマガエルの歌を聞いてはくれなかった。旅の果てに、アマガエルは海にたどり着く。そこで、アマガエルが会ったのは？ 自分らしく生きていくことの大切さを教えてくれる絵本。</p>
1																
書名	アマガエルのうた															
著者等	作 谷口智則															
出版社	アリス館															
定価	1,500															
対象	小学校低学年															
発行	2023年6月															
(分類番号 726)																
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">2</td></tr> <tr><td>書名</td><td>えをかく 新版</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>作 谷川俊太郎 絵 長新太</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>講談社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年4月</td></tr> </table>	2		書名	えをかく 新版	著者等	作 谷川俊太郎 絵 長新太	出版社	講談社	定価	1,600	対象	小学校低学年	発行	2023年4月	<p>「えをかく」は、1973年に発表された谷川俊太郎さんの詩である。それを絵本にしようとして企画したのが、今江祥智さんで長い間、絶版になっていたが、新版として発刊された。「まず はじめに じめんをかく」という谷川さんの言葉から本が始まる。上の部分に谷川さんの詩が書いてあり、その詩に対応して長さんの絵が描かれている。これなら自分でも描けるかな、と勘違いをしてみようという長さんの絵を見ていると楽しくなってくる。最後に「そして もういちまい しろいかみを めのまえにおく まず はじめに じめんをかく」で終わり、始めに戻る。絵を描く楽しさを感じる絵本。</p>
2																
書名	えをかく 新版															
著者等	作 谷川俊太郎 絵 長新太															
出版社	講談社															
定価	1,600															
対象	小学校低学年															
発行	2023年4月															
(分類番号 726)																
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">3</td></tr> <tr><td>書名</td><td>おなかのなかのあかちゃんへ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>作 こがようこ 絵 くのまり 監修 荻田和秀</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>岩崎書店</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,500</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年6月</td></tr> </table>	3		書名	おなかのなかのあかちゃんへ	著者等	作 こがようこ 絵 くのまり 監修 荻田和秀	出版社	岩崎書店	定価	1,500	対象	小学校低学年	発行	2023年6月	<p>作者の こが ようこさんは、普段から「語りかけ」をテーマに絵本作りをしている。お腹にいる時から赤ちゃんに話しかけることが、赤ちゃん自身だけでなく、お母さんやお父さんにとってもいいことではないかと考え、荻田和秀医師に監修を依頼してこの本が誕生した。荻田医師は、「語りかけ」の良さとして、赤ちゃんへの影響と共にお母さんをはじめとする周りの人への影響をあげている。妊娠中は嬉しいし楽しいし、でもしんどくてつらいというのが本音。そんな時に、くの まりさんの絵を見ていると、とてもあたたかい気持ちになってくる。かつて、お母さんのおなかの中にいた全ての人に読んでほしい語りかけ絵本。</p>
3																
書名	おなかのなかのあかちゃんへ															
著者等	作 こがようこ 絵 くのまり 監修 荻田和秀															
出版社	岩崎書店															
定価	1,500															
対象	小学校低学年															
発行	2023年6月															
(分類番号 913)																
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">4</td></tr> <tr><td>書名</td><td>そらうみ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>文 富安陽子 絵 はぎのたえこ</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>講談社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,600</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低学年～</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年7月</td></tr> </table>	4		書名	そらうみ	著者等	文 富安陽子 絵 はぎのたえこ	出版社	講談社	定価	1,600	対象	小学校低学年～	発行	2023年7月	<p>暑い暑い夏の日。僕は、3丁目の坂を越えて、プールへ行くことにした。真っ白い日差しを浴びて歩いていく。セミたちの大合唱を聞きながら、てくてく坂を登っていく。坂のてっぺんには、青い空と白い入道雲がある。坂を登りきったら、坂道の先が入道雲のなかに続いていて…。夏の空といえば、入道雲を真っ先に思い出す人も多いはず。入道雲がこの物語のステージになっている。夏になると必ず読みたくなるファンタジー絵本。</p>
4																
書名	そらうみ															
著者等	文 富安陽子 絵 はぎのたえこ															
出版社	講談社															
定価	1,600															
対象	小学校低学年～															
発行	2023年7月															
(分類番号 726)																
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">5</td></tr> <tr><td>書名</td><td>とんでやすんでかんがえて...</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>作 五味太郎</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>偕成社</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,300</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校低学年</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年2月</td></tr> </table>	5		書名	とんでやすんでかんがえて...	著者等	作 五味太郎	出版社	偕成社	定価	1,300	対象	小学校低学年	発行	2023年2月	<p>小鳥さんが飛んでいる。ちょっと飛んで、ちょっと休んで、木の実を食べたら、またちょっと飛んで、少しずつ進んでいく。でも、突然大きな海が現われた。小さいから あまり長くは飛べないし、すぐお腹もすくし、どうしよう。そこで、小鳥さんは、「考えなくちゃ！」と言って、考え始めた。自分の生き方、タイミングは自分で決めていい、と子どもたちを応援する絵本。</p>
5																
書名	とんでやすんでかんがえて...															
著者等	作 五味太郎															
出版社	偕成社															
定価	1,300															
対象	小学校低学年															
発行	2023年2月															
(分類番号 726)																
	<table border="1"> <tr><td colspan="2">6</td></tr> <tr><td>書名</td><td>森のちいさな三姉妹 森ネコさんのおかしをどうぞ</td></tr> <tr><td>著者等</td><td>作 楠章子 絵 井田千秋</td></tr> <tr><td>出版社</td><td>Gakken</td></tr> <tr><td>定価</td><td>1,400</td></tr> <tr><td>対象</td><td>小学校中学年～</td></tr> <tr><td>発行</td><td>2023年3月</td></tr> </table>	6		書名	森のちいさな三姉妹 森ネコさんのおかしをどうぞ	著者等	作 楠章子 絵 井田千秋	出版社	Gakken	定価	1,400	対象	小学校中学年～	発行	2023年3月	<p>もりもり森には動物だけでなく、こびとたちも住んでいます。こびとの女の子ココは、二人のお姉ちゃんとたまにケンカをしながらも仲良く暮らしています。ある春の朝、ココは森にはいないはずの白いネコさんと出会います。町からきたネコさんは、ココたちの力を借りてもりもり森で新しい家を見つけます。ネコさんはここでおかしのお店を開くことになり、ココはとあるパーティーを思いつくのですが、それにはある問題がありました。「だれかのためになりたい」ココが奮闘する物語。</p>
6																
書名	森のちいさな三姉妹 森ネコさんのおかしをどうぞ															
著者等	作 楠章子 絵 井田千秋															
出版社	Gakken															
定価	1,400															
対象	小学校中学年～															
発行	2023年3月															
(分類番号 913)																



7	
書名	こらしめじぞう ふらちなやつ引きうけます
著者等	作 村上しいこ
	絵 軽部武宏
出版社	静山社
定価	1,300
対象	小学校中学年～
発行	2023年10月

依央里は朝からお姉ちゃんに失敗を笑われてモヤモヤした気分登校していました。すると、見慣れないお地蔵様を発見します。足下にタヌキの置物が置いてある不思議なお地蔵さんのそばには「こらしめじぞう」と書かれた立て札が立っていました。そこに書いてあることには、心の中でこらしめたい相手の名前を唱えると代わりにその人間をこらしめてくれるらしい。軽い気持ちで名前を唱えてしまい、思ってもいなかった大変な事態になってしまいます。ぞくぞくとこわくて、でも読むのをやめられない短編集。

(分類番号 913)



8	
書名	ドロップイン!
著者等	作 あさだりん
	絵 酒井以
出版社	金の星社
定価	1,400
対象	小学校中学年～
発行	2023年9月

ママと二人暮らしの葵は、離れて暮らすパパとスケートボードをした思い出を夢に見ます。しまいこんであったスケートボードを出してきて、川沿いの道をゆくり滑っていると、クラスメイトの涼とそのお兄さんにスケートボードの大会に出ないかと誘われます。涼とけんか腰になり、葵は3ヶ月後の大会に出ることになります。練習を始めますが、なかなか技が決められません。諦めずに練習していくうちに、葵にアドバイスしてくれる人たちが現れます。スケートボードの楽しさと、挑戦することの魅力がいっぱいにつまった作品。

(分類番号 913)



9	
書名	けものみちのわ
著者等	作 水風紅美子
	絵 げみ
出版社	B L 出版
定価	1,600
対象	小学校高学年～
発行	2023年9月

風花たち家族と離れて、山のふもとで暮らすおじいちゃんの家のとなりには、「けものみち」と呼ばれる不思議な道があります。この「けものみち」はただの動物たちの通り道ではなく、昔から不思議なことが起こる道なのです。不思議なことをよく知り、風花のよき理解者であるおじいちゃんといっしょに、風花も人ではない不思議なものたちと出会い、不思議な体験をしていきます。少しこわくて、でも優しく美しい一年間の物語。

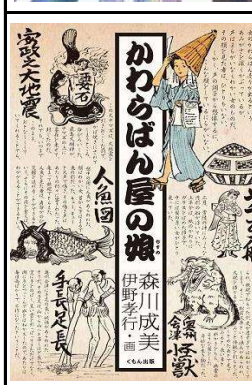
(分類番号 913)



10	
書名	はじめは一冊の本!
著者等	作 濱野京子
	絵 森川泉
出版社	あかね書房
定価	1,300
対象	小学校高学年～
発行	2023年9月

サッカー好きの父やスポーツ好きの姉と趣味が合わず、少々強引な父に流されてしまう柊斗。周りの友達も読書や体を動かすことなど好きなことがはっきりしているのに、柊斗には夢中になれるものはありませんでした。ちょっと調べたいことがあって図書館に行きはじめたのをきっかけに、柊斗は卒業生が手作りした「世界に一冊だけの特別な本」と出会います。本って小学生でも作れるの? どうやって作るの? 疑問に思ったことを調べていくうちに、自分の好きなことに気づき始める好奇心の旅の物語。

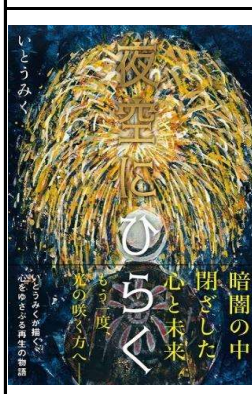
(分類番号 913)



11	
書名	かわらばん屋の娘
著者等	作 森川成美
	画 伊野孝行
出版社	くもん出版
定価	1,500
対象	中学生
発行	2023年7月

江戸の貧乏長屋に暮らす少女、吟は13歳。亡くなった母の代わりに家事、弟の世話、そしてかわらばん屋の父親を手伝って絵を描く毎日だ。江戸時代、幕府の厳しい情報統制下でかわらばん屋は公には活動できない危ない商売だった。役人に隠れて売り歩き、おもしろおかしい作り話の中に少しの真実を混ぜることで、人々事件や情報を伝えていたのだ。そんな苦しい生活の中で、父親が突然失踪し吟は途方に暮れる。元武士の悠三郎に助けられ、かわらばん屋としてなんとか生計を立てようとするが、吟達を巻き込む事件が起きる。あきらめずに困難に立ち向かい、自分の生きる道を見つけて力強く生き抜こうとする、現代社会にも通じる江戸時代の物語。

(分類番号 913)



12	
書名	夜空にひらく
著者等	著 いとうみく
出版社	アリス館
定価	1,600
対象	中学生～
発行	2023年8月

アルバイト先で傷害事件を起こし試験観察処分となった17歳の鳴海円人の補導委託先は山梨県の煙火店だった。社長の深見、その母まち子、住み込みで働く双子の健と康との生活が始まる。皆で暖かい食卓を囲む暮らしの中で、ベテラン花火師や事務員のさりげない優しさと静一の包容力に触れ、円人は少しずつ周囲に心を開いていく。事件当時祖母と二人暮らしだった円人の生い立ち、起こした事件の真相、そしてなぜ静一が受託者になったのか。これらが徐々にひも解かれ、物語に引き込まれていく。円人や静一は自分と向き合い、過去を乗り越えることができるのか。やがて迎えた祭りの日、それぞれの思いを込めた花火が美しく夜空を飾る。再生を描く物語。

(分類番号 913)

	<p>13</p> <p>書名 そして、あの日 エンリコのスケッチブック</p> <p>著者等 作 リンデルト・クロムハウト 訳 野坂悦子 絵 アンネマリー・ファン・ハーリンゲン</p> <p>出版社 岩崎書店</p> <p>定価 1,400</p> <p>対象 小学校高学年～</p> <p>発行 2023年7月</p>	<p>これは実際に起きたイタリア・アッジジ地方の大地震に着想を得て書かれた物語。イタリアの「聖人さまの伝説」のある小さな村に住むエンリコは、絵を描くことが大好きな少年だ。この夏、エンリコはじいちゃんが暮らす谷間に通って羊飼いの手伝いや弟の世話をしながらガールフレンドのテレサとの将来を思い描いてそこいた。そして8月のある日、地震によって多くの人が犠牲になり建物は崩壊、村の景色は一変する。エンリコは亡くなる前の祖母と交わした約束「村の絵を描くこと、村がどんなふうだったかを伝えること、いつもスケッチブックを持って歩くこと」を忘れない。困難の中にあっても前に進む姿勢と美しい挿絵から生きる力をもらえる作品。</p> <p>(分類番号 993)</p>
	<p>14</p> <p>書名 ナスレディン スープのスープ</p> <p>著者等 作 ジハド・ダルウィシュ 訳 松井裕史 絵 ヨシタケシンスケ</p> <p>出版社 理論社</p> <p>定価 1,300</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2023年9月</p>	<p>登場人物のナスレディンはアラブ・イスラム圏で「ナスレディン・ホジャ」の名でよく知られている。実在の人物の名前というより、賢者・愚者・ケチ・ほらふき・皮肉屋など、さまざまな面をもつ人格の集合体のようなものについて名前と考えられる。本書では63篇の話が楽しめるが、その内容は日本のとんち話や落語に似たものもあり、異国情緒あふれるナスレディンの世界にも親しみがわく。機転が利き、知恵とユーモアにあふれ教訓をも含む数々の話は大人から子供まで楽しませてくれる。レバノン生まれの著者は、民話再生運動にも参加、本書はアラビア語圏で語り継がれたナスレディンの話をフランス語で発表したもの。語り部としても活動している。</p> <p>(分類番号 388)</p>
	<p>15</p> <p>書名 14歳のヒロシマ 被爆者が伝える戦争と平和のはなし</p> <p>著者等 著 梶本淑子</p> <p>出版社 河出書房新社</p> <p>定価 1,420</p> <p>対象 中学生～</p> <p>発行 2023年7月</p>	<p>1945年8月6日、当時14歳だった著者は広島で被爆した。70歳で被爆体験の証言者として語り部を始め、90歳を超えた今、本書を刊行した。</p> <p>被爆した瞬間に起きたこと、五感で感じた周囲の様子など体験したことが克明に記されているが、何十年もの間、思い出したくない、語りたくない体験だったのだ。また、著者は被爆者の証言をもとに広島の高校生たちが描く「原爆の絵」プロジェクトにも参加、その絵が本書に掲載されている。原爆の威力、後遺症や偏見に苦しむ被爆者たち、戦争の無意味さと悲惨さ、平和の大切さが切実に伝わる。著者の生きる姿を通して学ぶ、苦しみから立ち直り、葛藤を乗り越えて未来に向かって歩む人間の強さ。必読の一冊。</p> <p>(分類番号 210)</p>
	<p>16</p> <p>書名 スクランブル交差点</p> <p>著者等 著 佐藤まどか</p> <p>出版社 小学館</p> <p>定価 1,300</p> <p>対象 中学生・高校生</p> <p>発行 2023年4月</p>	<p>柳田強は都立M高校の一年生。何事にも熱くならず、誰とも必要以上に親しくならず、ほどほどに生きている。夏休み明け、後ろの席にイタリアからの留学生マルコがやってきた。お世話係に任命された強は、陽気で好きなことにはとことん突き進むマルコに振り回されるうちに熱い気持ちが生まれ、少しずつ変わっていく。幼馴染の由依や癖のあるクラスメイトとの関わり、家の経済状況や自分の進路のことなど悩みは尽きない。そして高校三年生の夏、世界はウイルス感染症によるパンデミックに見舞われていた。周りのみんなが進路を決めてどんどん先に行ってしまう、自分だけが取り残されたような気持ちになった強は、見出した未来に向かって進んでいく。人間関係や進路に悩みながら自分を発見していく友情と成長の物語。</p> <p>(分類番号 913)</p>
	<p>17</p> <p>書名 優等生サバイバル 青春を生き抜く13の法則</p> <p>著者等 作 ファン・ヨンミ 訳 キム・イネ</p> <p>出版社 評論社</p> <p>定価 1,500</p> <p>対象 中学生・高校生</p> <p>発行 2023年7月</p>	<p>ジュノは名門のトゥソン高校に首席で入学した。父はボランティア中心の医者で、現在は大腸がんで闘病中だ。そのため父母は田舎暮らしをしていて、ジュノは叔父さんのヴィラに住んでいる。大学進学実績抜群の高校は入学式当日から夜間自習が始まり、成績優良生しか使えない正読室では不安ばかりが募る。テストのたびに成績は下がり、家の経済状況も心配、元アイドル練習生だったハリムや幼馴染のビョンソにわがままを言われたり、勉強でも生活でも戸惑うことばかり。しかし、親友のゴヌやサークル仲間のユビンとボナ先輩と過ごす時間を通じて、ジュノは自分自身と向き合い次の一歩を踏み出していく。学歴重視な韓国の高校生の一学期を描いた青春小説。</p> <p>(分類番号 929)</p>

	<p>18</p> <p>書名 ノウイットオール あなただけが知っている</p> <p>著者等 著 森バジル</p> <p>出版社 文藝春秋</p> <p>定価 1,600</p> <p>対象 高校生～</p> <p>発行 2023年7月</p>	<p>架空都市である切縞市を舞台とした、ジャンルの違う5つの物語で構成された小説。高額な依頼料で難事件を解く名探偵が登場する推理小説、高校生の男女漫才コンビがM-1を目指す青春小説、未来人から狙われる女子高生を描いた科学小説、魔界を追放された魔法使いとこの世界の霊魂が怪物と戦う幻想小説、人に言えない秘密を抱えた30代女性の恋愛小説。読み進めていくうちに物語は絶妙に重なり合い、繋がっていく。そして、そのことに各話の主人公たちは気が付いていない。すべてを知るのは読者のみ。タイトルを英語にすると「Know It All」で「知ったかぶり」という意味だが、この物語で言えば「あなただけが知っている」。第30回松本清張賞受賞作。</p>
(分類番号 913)		
	<p>19</p> <p>書名 ピンヒールで車椅子を押す</p> <p>著者等 著 島山織恵</p> <p>出版社 すばる舎</p> <p>定価 1,400</p> <p>対象 高校生～</p> <p>発行 2023年7月</p>	<p>厳しい父母に育てられた著者は、窮屈な家から逃げ出すために19歳で妊娠・結婚すること決意する。そして生まれた小さな男の子の赤ちゃん。検診のたび感じる不安に病院では様子を見ましようと言われ、心配になって専門医に見せたところ肢体不自由の脳性麻痺で、何故早く連れてこなかったのかと責められる。夫の理解もなく、実家も頼れない中、一人で何もかもしなくてはならないと思っていた著者は、自分が嫌いな自分と真逆の自分を好きだと思える子育てをしようとする。人を頼ること、自分の人生を大切にしながら母親として生きること。息子の意思を尊重し信じることを、やりたいことはやらせて独り立ちできることを目指す。ポジティブに生きる喜びを見つけていく親子のノンフィクション。</p>
(分類番号 598)		
	<p>20</p> <p>書名 Link</p> <p>著者等 著 小平奈緒</p> <p>出版社 信濃毎日新聞社</p> <p>定価 1,800</p> <p>対象 高校生～</p> <p>発行 2023年10月</p>	<p>著者はスピードスケートの五輪金メダリストで2022年10月に引退をした小平奈緒。彼女の競技人生の歩み方は山登りが原点だという。スケートを始めたころの思い出に始まり、スピードスケート選手として茅野北部中、伊那西高時代に全国大会で短距離2冠を達成した彼女は、人生で一番緊張したという信州大学の入試に挑み見事合格。結城匡啓信州大教授とそれから引退までの18年余を共に歩むことになる。卒業後は相澤病院に所属しオリンピック選手となる中、オランダへの留学が転機となりさらに高みへと昇っていく。そして、競い合った仲間への敬意、台風災害の被災地に寄り添った心境、経験を伝えていく使命など、引退後も小平奈緒は次の一步を踏み出していく。タイトルの「Link」は人とつながるという意味。</p>
(分類番号 784)		